

はこだてしこ かいぎ
函館市子ども会議

かいさいほうこくしょ
開催報告書

1 函館市子ども会議の概要

① 函館市子ども会議について

函館市子ども会議は、函館市子ども条例に基づき、子どもたち自身が、子どもに関係する施策やまちづくりに関すること等について話し合い、意見発表することで社会参加してもらうことを目的として開催するものです。

② 参考「函館市子ども条例」(平成28年4月1日施行)

この条例は、子どもや子育て家庭の支援に関する理念条例であり、市の責務や保護者、学校、住民、事業者の役割を明らかにするとともに、市の施策の基本となる事項を定めています。

>>第18条 (子どもの社会参加)

市は、子どもに関係する施策について子どもが意見を表明できるようにするなど、子どもが社会参加をする機会を設けるよう努めます。

2 令和3年度函館市子ども会議の開催

① 開催日時・場所

日時：令和4年2月2日(水) 10:30～11:30

場所：オンライン開催

② 参加者

函館市立戸井学園の5・6年生計13名が参加しました。

③ テーマ

「^{はこだてし}函館市をより^よ良くするためには？」

令和3年度は、^{れいわ}令和^{ねんど}3年度は、「^{はこだてし}函館市をより^よ良くするためには？」をテーマに、^こ子どもたちが^{かんが}考えてきた^{いけん}意見を、^{ひとり}一人ずつ市に対して^し発表^{ない}しました。

④ ^こ子どもからの^{いけん}意見および^し市の^{かいとう}回答

^{べつてん}別添のとおり

※ ^{かくじどう}各児童からの^{いけん}意見ごとに^{かいとう}回答しているため、^{おな}同じような^{いけん}意見に対しては、^{おな}同じような^{かいとう}回答になっています。

市への意見

- 排出ガスや地球温暖化を抑えるために土日は車をできるだけ走らせないでほしい。

回答

私たちは普段の生活の中で電気やストーブ、車などを使うりすることによって、二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しています。温室効果ガスは熱を保つ力があり、このガスが増えすぎて地球全体の気温が上がってしまうことを「地球温暖化」といいます。

地球温暖化が進むことによって、台風が大きくなったり、集中豪雨が増えたり、農作物が育たなくなったりすることなどが心配されています。

函館で排出された温室効果ガスのほとんどが二酸化炭素で、そのおよそ5分の1は車での移動によるものです。車は便利な移動手段ですが、バスの約2倍、鉄道の約7倍の二酸化炭素を排出してしまいます。そのため、環境にやさしい移動方法へ変えることが大切です。

函館市では二酸化炭素の排出を減らすために様々な取組を行っていますが、その一つとして、地球温暖化を防ぐための活動を行っている「函館市地球温暖化対策地域推進協議会」と協力し、市民のみなさんの移動による二酸化炭素の排出を減らすため「はこだてスマートムーブデー」という事業を実施しています。

この事業では、「エコな移動」を実践してもらうため、車を使わずに歩いたり、自転車に乗ったり、電車やバスなどで移動する「ノーマイカー」、車を使わなくてはいけない時は、安全で温室効果ガスの排出が少ない運転などを心がける「エコドライブ」、会社に出勤しないで自宅で仕事をする「テレワーク」の取組を呼びかけています。

このほかにも、「エコな移動」について、パンフレットを配布したり、ラジオなどで呼びかけたりしていますが、さらに多くのみなさんが曜日にかかわらず「エコな移動」に取り組んでもらえるよう、これからも呼びかけなどを行っていきます。ぜひみなさんも家族とお出かけする時などは「エコな移動」に心がけてください。

担当課：環境部環境総務課

市への意見

- 煙突のある工場が休みになるとずっと空気が良くなると思う。

回答

工場の煙突から出る煙で空気が汚れる原因は、燃料や燃やし方に問題があると考えています。このため、工場の煙突から出る煙には法律によりルールがあります。空気を良くするために工場を休みにはできませんが、函館市ではこのルールが守られるよう工場の人に指導しています。さらに、函館市では、市内の大気環境（空気）のモニタリングを24時間行っています。その結果は、環境部のホームページで見ることができます。全国の自治体でも同じようなモニタリングを行っていて、その結果も環境部のホームページから見ることができますので、函館の空気の状態について他の自治体と比較してみてください。

担当課：環境部環境対策課

市への意見

- ボランティアだけではなく、新しい仕事「ごみひろい」を追加したり、ゴミを捨てない看板を増やしてほしい。

回答

ごみのないきれいな街はみんなが願う街の姿です。ボランティア清掃は、地域の皆さんの協力で行われ、参加した人は、清掃活動の大変さや街がきれいになることのすばらしさを感じて、ごみのポイ捨てはしない、させない気持ちが生まれてくるとおもいます。

ごみのない街にするためには、仕事として清掃（ごみ拾い）をしてもらうを増やすことも考えられますが、街をきれいにしようとする気持ちの人を増やすことも大切だと考えています。

春と秋には、きれいで住みよい街づくりのため、空き缶やペットボトルなどのポイ捨てごみを対象に、身近な地域で、市民の皆さんそろってのボランティア清掃「クリーン作戦」を行っています。これからも、たくさんの方にボランティア清掃に参加してもらえるように、色々な方法でお知らせしていきたいとおもいます。

また、ポイ捨てごみの多い場所には、地域の皆さんが、函館の街をきれいにする市民運動協議会で作成した「ごみのポイ捨て禁止」の看板などを立ててくれています。この看板を見て、ごみのポイ捨てをしようとした人が、ごみを持ち帰る行動にかえてくれると、街からポイ捨てごみは少なくなります。

これからも看板を活用して、ごみのポイ捨て禁止を伝えていくとともに、学校や地域の皆さんに、きれいな街は私たちが守るという気持ちをみんなにもってもらえるように、出前講座などでお話しをして、ごみのポイ捨てをしない、させない人づくりも進めていきたいと考えています。

担当課：環境部環境推進課

市への意見

- 市民や観光客の皆さんに魚について知ってもらい、食べてもらうために、お魚レストランや博物館を開いてほしい。

回答

函館のお魚を知ってもらい食べてもらうため、飲食店や函館市でもいろいろな取り組みをしています。

市内の多くの飲食店には、魚のメニューがあって、観光客の皆さんに美味しい魚を食べてもらうため、水槽から取り出したイカを手早くさばいて丼に盛り付ける活イカ丼や、鮮度抜群の刺身盛り合わせなどを提供しています。

また、朝市では「活いかの釣堀」を作り釣ったイカをその場で食べてもらうなど、お客さんに楽しんで食べてもらう工夫をしています。

函館の魚を知ってもらう場所としては、朝市で近海の魚介を展示する「函館朝市ミニ水族館」などが実施されていて、大変人気があります。

また、函館市では、函館でとれたイワシを使った料理教室など魚をテーマにしたイベントも行っています。今後も様々なイベントにおいて、より多くの市民や観光客の皆さんに魚について知ってもらい食べてもらうための取り組みをしていきたいと思っております。

担当課：経済部食産業振興課

市への意見

- 函館の街の中（街路樹の下や植えられないところにはプランターなど）に花をたくさん植えて、街の中を色とりどりにしてほしい。
- 花時計をもっと作れば良いと思う。さらに花文字で街の名前を書いたり、花のトンネルを作ったりして、花いっぱいの函館にしてほしい。

回答

函館では、函館市や一般財団法人函館市住宅都市施設公社をはじめ、町会や学校、ボランティアなどいろいろな団体が緑をまもり・そだて・つくりあげる活動をしていて、皆さんが通う小学校でも校庭にある花壇やプランターに色とりどりの花を植えていると思います。

このようななか、函館の街の中に花をたくさん植えて、街の中を色とりどりにする活動としては、市内にあるたくさんの街を結ぶ幹線道路にある街路樹を植えるスペースに町会や商店街などの方々が花を植え、育てていただく沿道花いっぱい運動を進めています。

また、道路沿いの小さな公園や中央分離帯の緑地などにある花壇でも町会やボランティアの方々が、花を植え、育てていただく花のパートナーシップによる緑化も進めていて、今後の活動内容として、花壇を運営する団体が花のデザインも考えるような取り組みにできないか関係者と話しながら進めます。

そのほか、函館駅前広場の花壇や駅前から八幡坂へとつながるルートにある街灯の柱で花で彩り、市民も観光客も、見て、歩いて、感じて楽しい、何度も訪れたいようになるようにするため、花の企画を募集して、花のデザインから維持管理まで実施する「函館駅前・西部地区花いっぱい業務」などの取り組みや、花時計の作成や花文字等のいただいたご意見を参考に今後も函館が花いっぱいの街になるよう取り組んでいきます。

担当課：土木部公園河川管理課

市への意見

- 湯川をもっと観光スポットにしてほしい。湯川の温泉や美味しい食べ物屋についてのチラシやポスターをインターネットで広めたり、飛行場からの「よりみちキャンペーン」のようなものがあれば良いと思う。

回答

函館市では、市の公式観光情報サイト「はこぶら」で、スポット情報として、湯の川温泉の各ホテル・旅館の紹介をしたり、湯の川を含む市内の美味しい食べ物屋を紹介したりしています。

また、もっと観光客の方に湯の川へ来てもらうため、湯の川の団体や企業の方々と協力して、夏には「湯の川温泉花火大会」を、冬にはイルミネーションやスタンプラリー等のイベント「湯の川冬の灯り」を実施したりしています。

湯の川は空港からはもちろん、JR函館駅からも市電で行きやすい場所にあるので、いただいた意見も参考にしながら、これからも色々なイベントの実施やPRの方法を考えたりして、もっと多くの方に訪れてもらえる工夫をしていきたいと思えます。

担当課：観光部観光振興課

市への意見

- 西部地区や五稜郭公園などで函館に住んでいる人や観光客も楽しめるスタンプラリーを開催したらいいと思う。函館市民と観光客が仲良くなれるようなミッションやクイズ、休憩場所を作り、全部のスタンプを集めた人に建物や公園の絵を描いた缶バッジをプレゼントするのも良い。

回答

函館市内では、団体や企業の方々が、函館を盛り上げようと、西部地区などの観光・歴史スポットのほか、五稜郭公園内を巡るスタンプラリーやSNSキャンペーンなどを実施して、函館市もウェブサイト「函館イベントガイド」でイベントのPRなどのお手伝いをしています。

今後、函館市としても地域の色々なスポットを生かしながら、様々な方が楽しんでもらえるようなイベントを考えていきたいと思えます。

担当課：観光部観光振興課

市への意見

- 元町の19カ所の坂を宣伝して、もっといっぱいCMや映画に使ってほしい。
- 子どもから大人まで楽しめる坂マラソン大会や冬だったら坂の特徴を活かしたそりすべり大会をやしてほしい。
- 坂の写真を撮って、撮った分だけ坂の景品をゲットできるイベントがあれば良いと思う。

回答

西部地区の坂は、最近でもCM撮影をはじめ、テレビの旅番組、アニメ番組など、様々な撮影で使われていて、年に20～30件の撮影があるととも人気があるスポットとなっています。

函館市では、市内で撮影をしたい映画会社やTV局の人達の撮影のお手伝いをしていますが、これからも坂などの函館の色々な魅力がCMやテレビ、映画などで使われるように宣伝をしていきたいと考えています。

また、冬の西部地区の坂を生かしたイベントとして、八幡坂や二十間坂をイルミネーションで彩る「はこだてイルミネーション」を実施しているほか、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前には、基坂の上にある元町公園と周辺で、「はこだてひかりのガーデン」と題してライトアップやスカイランタン、雪だるま作り、チューブスライダー等を実施しました。

さらに、西部地区の坂ごとに命名のゆかりなどを説明する「坂説明柱」を置いたり、西部地区の観光名所をめぐる「まちあるきマップ」を作成するなど、観光スポットとしての魅力を発信しています。

西部地区の坂は、歴史や景観など魅力のあるスポットだと思っておりますので、いただいた意見も参考にしながら、観光客の方にもっと来ていただけるよう、坂の特徴や景観を生かしたイベントやPR方法などを考えていきたいと思っております。

担当課：観光部観光振興課

市への意見

- 古い建物を古民家カフェに再利用すると良いと思う。
- 古民家カフェで函館ならではのインスタ映えするメニューを作してほしい。

回答

国際貿易港として1859年に開港して以降、函館の経済および政治の中心地として栄えた西部地区には、1階と2階で建物の外観が異なる上下和洋折衷の建物など、函館ならではの特徴的な古い建物が数多く残っています。このような建物を残し、活用することは、函館の魅力高めるために必要であると考えています。

函館市では、建物の保全事業に取り組んでいて、昨年には、古い建物の利活用などに取り組むまちづくり会社「株式会社はこだて西部まちづくRe-Design」をつくりました。

古い建物を古民家カフェとして活用する方法は、一つの良いアイデアだと思います。実際に西部地区では、古民家を改装してカフェを営んでいる方もいます。そういう方は、地元でとれる食材を生かしたメニューをつくったり、食器にこだわるなど、古民家の雰囲気を活かしながら特徴的なお店づくりをされていて、こうしたこだわりのカフェは、観光客や市民の皆さんに人気があります。

西部地区を散策し、お気に入りの場所をみつけてみてはいかがでしょうか。

担当課：経済部食産業振興課、都市建設部まちづくり景観課

市への意見

- 棒二の建物を子どもが気軽にいくことができるような場所や本を読めるような静かな場所、体を動かせる場所にしてほしい。

回答

棒二森屋店の建物は、老朽化が進み、今のまま使うことが難しいため、今後解体が予定されています。解体後は、市民や観光客など多くの方が訪れる函館駅前という場所の特長を活かし、ホテル、マンション、4階建ての商業施設、屋根付きの全天候型交流広場が入る複合施設が整備される予定です。

函館市は、この商業施設の3階、4階に公共施設の設置を検討しているところですが、函館駅前・大門地区により多くの方が訪れるよう「子どもから高齢者まで性別を問わず集い交流する施設」が望ましいと考えています。

棒二森屋店の向かいには、科学を身近に感じたり、プログラミングやワークショップができる「はこだてみらい館」や子どもたちが全身を使って遊べる「はこだてキッズプラザ」がありますので、それらの施設とも連携しながら多くの方々に利用してもらえる、地域にふさわしい施設づくりの検討に取り組んでいきます。

担当課：経済部 商業振興課

市への意見

- ブリをおいしく食べられるブリ料理の店や、ブリのイベントがもっと注目してもらえるような機会を増やしてほしい。

回答

函館市では、4年ほど前から関係する団体が集まって、ブリを使ったレシピを開発したり、ブリをPRするイベントの開催などを行っています。

北海道の渡島総合振興局は、平成30年5月に「はこだてブリ消費拡大推進協議会」という会議の場をつくり、函館市内でとれるブリの消費を増やすための意見交換を始めました。

この協議会には、函館市内の漁業協同組合などのほか函館市も参加し、ブリを使ったレシピの開発やブリをPRするイベントの開催などブリの消費を増やすために、いろいろな取り組みを行っています。

令和2年には函館の新しいご当地メニューとして、「はこだてブリたれカツ」を開発したほか、令和2年と令和3年の10月中旬の9日間、「ブリフェス」というイベントを行い、函館市内と近郊の北斗市などの飲食店が、「はこだてブリたれカツ」など、ブリを使った様々なメニューを用意し、たくさんの方がおいしいブリ料理を楽しむことができました。

ブリのイベントとしては、「ブリフェス」のほかに、キッチンカーによる「はこだてブリたれカツバーガー」の移動販売などのイベントがあり、「はこだてブリたれカツバーガー」は幅広い年代の方に好評です。

これらのイベントを行うときは、函館市などのホームページでイベントの内容を紹介し、また、新聞報道も行われたため、多くの方がこれらのイベントに注目してくれました。

これからも函館の新しいグルメとして、ブリを使った食べ物を多くの人に食べてもらえるようPRし、イベントを行うときは、より多くの人に注目してもらえるような方法を工夫していきたいと考えています。

担当課：経済部食産業振興課、農林水産部企画調整課

市への意見

- 函館でとれた魚をもっと学校の給食で出してほしい。
- 函館でとれる魚を使って簡単にできるレシピパンフレットをスーパーなどに置いてほしい。
- 全国の皆さんに函館の美味しい魚をとどけるネット販売を行ってほしい。

回答

函館市の学校給食では、平成24年から積極的に函館産の食材を使う取り組みを始めました。

近年漁獲量が増えているぶりのほか、さけ、春採り昆布などの函館産の魚や海藻類を、年間を通して給食で使用していて、令和2年度に使用された魚介類・海藻類のうち約24%が函館産となっています。

函館産の魚介類・海藻類を使用した献立として、ぶりを使用した照り焼き、竜田揚げやご当地グルメとして開発されたはこだてブリたれカツなどがあります。

また、さけは焼き物や揚げ物のほかに、三平汁や石狩汁などに使用されていますし、昆布は主にだしとして、春採り昆布は、煮物、汁物や和え物などに幅広く使用されています。

平成26年6月から毎月実施している「和食の日」を中心に、魚のほかにも季節に応じた函館産野菜を幅広く使用していて、令和2年度の学校給食では使用された野菜のうち約39%が函館産で、取り組み前と比べて約18%増加しています。

使用している食材については、献立表や食育だよりなどで家庭にお知らせしているほか、学校では給食の時間に先生などから食材に関する説明や授業を行っています。

このような学校での取り組みを通じて、皆さんに函館でとれる魚などについて興味や関心を持ってもらうとともに、給食を残さず、おいしく食べてもらえるよう調理方法などを工夫しながら、函館でとれる食材を積極的に使用していきたいと考えています。

また、函館でとれる魚を使ってできるレシピについては、函館市のホームページや渡島総合振興局のホームページでも紹介しているほか、函館でとれる魚を全国に届けるネット販売は、函館市内の一部の魚屋さんが行っています。

これからは、より多くの人においしい函館の魚を食べてもらうため、レシピをスーパーなどに置いて利用してもらう方法や全国に発信できる販売のしかたなどについても考えていきたいと思っています。

担当課：農林水産部企画調整課，教育委員会学校教育部保健給食課

市への意見

- 函館で多くとれているブリを使った函館にしかない食べ物を作ってほしい。

回答

函館市では、4年ほど前から関係する団体が集まって、ブリを使ったレシピを開発したり、ブリをPRするイベントの開催などを行っています。

北海道の渡島総合振興局は、平成30年5月に「はこだてブリ消費拡大推進協議会」という会議の場をつくり、函館市内でとれるブリの消費を増やすための意見交換を始めました。

この協議会には、函館市内の漁業協同組合などのほか函館市も参加し、ブリを使ったレシピの開発やブリをPRするイベントの開催などブリの消費を増やすために、いろいろな取り組みを行っています。

令和2年には函館の新しいご当地メニューとして、「はこだてブリたれカツ」を開発したほか、令和2年と令和3年の10月中旬の9日間、「ブリフェス」というイベントを行い、函館市内と近郊の北斗市などの飲食店が、「はこだてブリたれカツ」など、ブリを使った様々なメニューを用意し、たくさんの方がおいしいブリ料理を楽しむことができました。

ブリのイベントとしては、「ブリフェス」のほかに、キッチンカーによる「はこだてブリたれカツバーガー」の移動販売などのイベントがあり、「はこだてブリたれカツバーガー」は幅広い年代の方に好評です。

これらのイベントを行うときは、函館市などのホームページでイベントの内容を紹介し、また、新聞報道も行われたため、多くの方がこれらのイベントに注目してくれました。

これからも函館の新しいグルメとして、ブリを使った食べ物を多くの人に食べてもらえるようPRし、イベントを行うときは、より多くの人に注目してもらえるような方法を工夫していきたいと考えています。

担当課：経済部食産業振興課，農林水産部企画調整課

市への意見

- 函館に大学を作ったり、仕事をする所を増やしたら良いと思う。

回答

市内にはプログラミングやA Iなどについて学ぶことができる情報系の公立はこだて未来大学のほか、地域について学ぶことができる教育系の北海道教育大学函館校、海や海に住む生物について学ぶことができる水産系の北海道大学水産学部など様々な大学があり、色々なことを学べる環境があります。

これらの大学に加え、函館市では、医科大学設置の可能性について検討するための調査を行ったことがあります。現在、国では、国内の医師の養成者数が十分なことから、基本的に医学部新設を認めていないため、現状では、市内での新設は難しいと考えています。

また、函館市ではI T企業の誘致を積極的に進めています。I T企業はコロナ禍で急速にテレワークが普及し、自宅で仕事ができたり、住む場所にとらわれず仕事ができるなど、とても人気のある職業です。平成26年度以降、函館市内に17社のI T企業が進出しています。函館市では高校生や大学生を対象に、そういったI T企業を知るきっかけとなるイベントを企画し、若い人が函館市で働けるようにサポートしています。

函館にやりたい仕事がないから、若い人に人気のあるカフェなどの働く所を増やせば函館に来てくれる人が増える可能性もありますね。

けれども一方では、函館には人手不足で困っている会社もあります。働きたいけれど仕事をする所がないと考える人と、人手不足の会社と、お互いのニーズが一致しないことを「雇用のミスマッチ」といいます。

函館市では、何となくのイメージだけで仕事を選んだり、どんな会社でどういう仕事をする所なのかをよく知らないために、こうしたミスマッチが起こると考えて、これを解消するための取り組みを行っています。

高校1～2年生には、会社の紹介やお仕事体験を通じて地元の会社を知ることができるイベント「函館しごとフェスタ」を開催しています。

さらに、函館の会社を大学生に知ってもらうために、マイナビの就職情報サイトを通じて、函館の会社を全国に情報発信しているほか、函館の仕事のポータルサイト「函館しごとネット」でも、地元の会社を紹介して、函館に移住して働きたい人と会社を結びつけるサポートをしています。

これからも函館で働きたいと思ってもらえるように、I T企業に限らず、様々な業種の会社を増やしていきたいと思っています。みなさんも、函館の産業や会社について知ることで、視野や価値観を広げ、将来に役立ててほしいと思います。ぜひ一度「函館しごとネット」

も見てくださいね。

担当課：企画部計画推進室政策推進課，経済部雇用労政課，工業振興課企業立地担当

市への意見

- 函館の有名なスポットをモチーフにしたインスタ映えするスイーツを作成してほしい。

回答

道南地域の菓子店において、世界遺産登録になった「北海道・北東北の縄文遺跡群」をテーマに中空土偶をモチーフにしたり、縄文人が食べていたとされるくるみを使った各店舗オリジナルのスイーツをつくり、縄文スイーツとしてPRしています。

Instagramは発信力があるので、インスタ映えするメニューをつくるという観点はとても大事なことだと思います。お店の方には、今後の商品開発の参考として、皆さんのご意見を伝えていきたいと思っています。

担当課：経済部食産業振興課

市への意見

- 雪ミクのイベントを函館でも開催してほしい。

回答

令和4年の冬に、雪ミクとコラボした事業を実施する予定です。

すでに桜ミクとのコラボ事業を実施している、青森県弘前市と連携して、雪ミクをきっかけとして冬の両市の観光スポットをめぐってもらえるようなしかけを考えています。また、令和5年の春には、桜ミクとのコラボ事業も予定しています。

札幌市や小樽市で行われているような、会場で実施するイベント形式のものではありませんが、デジタルスタンプラリーの実施など、たくさんの方が函館に来て、楽しんでもらえるような内容にしたいと思っています。

担当課：観光部観光誘致課

市への意見

- 世界遺産となった縄文遺跡をもっと活用すると良いと思う。
- 土日限定で、バスを使って縄文遺跡まで行けるようにすれば良いと思う。
- 粘土を使って土器を作れるようにしてみたり、縄文時代に着ていた物を着て縄文時代の生活をやってみたり、たくさん体験ができるようにしてほしい。
- 遺跡のそばに顔はめや、イラストの入った明るい看板を置いてほしい。

回答

世界遺産となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産になっている史跡垣ノ島遺跡と史跡大船遺跡では、専門スタッフが遺跡内の見所を見学者の方と一緒に巡りながら詳しく解説するほか、史跡垣ノ島遺跡では本物の土器や石器の発掘体験などを行っています。

また、令和4年度には、史跡垣ノ島遺跡で最新のデジタル技術を活用して、集落の移り変わりや縄文時代の暮らしの様子、発掘調査の様子などを見えるようにするなど、見学する皆さんが楽しみながら縄文文化を理解できる取り組みを進めています。

このほか、遺跡を会場に、市民団体の皆さんが中心となってコンサートや各種イベントが行われるなど、たくさんの市民の方に遺跡が活用され始めていて、縄文文化交流センターを含めた縄文遺跡群には、多くの方が訪れるようになってきています。

この縄文遺跡群は、南茅部地域にあり、子ども達だけでは簡単に行ける距離ではありません。このため、教育委員会では、市内の小学3年生が学校教育の一環として市内の縄文遺跡群を見学する「縄文に触れる学習」を実施していますので、実際に現地を訪れ、遺跡や縄文文化に触れることができます。

また、市民や観光客の方々が利用できる、市街地から縄文遺跡群へ直接行けるバスの運行実験などについても検討していますので、実用化されれば、縄文遺跡群へ直結するとても便利な交通手段になることが期待できます。

なお、縄文文化交流センターでは、「縄文ペンダントづくり」や「組紐アクセサリ」などの体験学習をいつでも行うことができ、体験学習室には、スタッフが作った土器のサンプルや縄文服がたくさん展示されていますので、ぜひ手にとって縄文文化を体感してください。

また、縄文文化交流センターをはじめ垣ノ島遺跡や大船遺跡などで、小学生や中学生を対象とした「土器づくり体験」や「鹿角釣り針づくり」、「石器づくり体験」など、様々な講座を定期的開催していますので、ホームページやチラシなどを確認して参加して

てはいかがでしょうか。

今後も、わかりやすい案内看板の配置や、記念写真が撮れるフォトスポットの設置を検討するなど、より多くの来訪者の方々が満足し、楽しく過ごせる施設となるよう取り組みを進めます。

担当課：教育委員会生涯学習部文化財課

市への意見

- 様々な年代の人が集まれるようなイベントを開催すると良いと思う。
- 函館山で「夜に親子で来て夜景を見てふれあう」というイベントを開催したり、五稜郭に関連したキャラクターの着ぐるみをレンタルして、仮装してまちなかである出歩くとみんな楽しくなれると思う。
- 子ども向けに函館の魅力をめぐるツアーを作してほしい。

回答

函館市では、市内の団体や企業の方々と一緒に、春には箱館戦争を再現した「箱館五稜郭祭」、夏には駅前や五稜郭をいか踊り等で練り歩く「函館港まつり」、秋にははこだてグリーンプラザに色々なグルメが集結する「はこだてグルメサーカス」、冬にはベイエリアに巨大なクリスマスツリーが登場する「はこだてクリスマスファンタジー」など、年間を通して様々なイベントを実施しています。

その中の「箱館五稜郭祭」では、土方歳三に扮した参加者が演技を披露する「土方歳三コンテスト全国大会」や、箱館戦争にちなんだ衣装を着て五稜郭を練り歩く「維新行列」を実施しているほか、最後のセレモニーでは、五稜郭に関連するキャラクターが集結するなど、箱館戦争や五稜郭に関連した多くのイベントを実施しています。

今後も、いただいた意見も参考にしながら、市内の多くの団体や企業の方々と協力したい、函館山や五稜郭をはじめとした函館の魅力的な景観を生かしたりして、幅広い年代の市民や観光客が楽しめるようなイベントを考えていきたいと思えます。

また、ツアーではありませんが、子どもから大人まで多くの方に函館の様々な場所を巡ってほしいとの思いから、西部地区の教会群や駅前エリア、五稜郭エリアなど魅力のある場所を巡るおすすめコースを「まちあるきマップ」として紹介して、地元の子どもの校外学習や修学旅行生のまちあるきなどに利用してもらっています。

今後も、函館の歴史を学んだり、景色を楽しんだりできるようなコースなどを考え、地元の子どもたちや修学旅行生にも紹介できるようにしていきたいと思えます。

担当課：観光部観光振興課

市への意見

- 子どもだけで公園に行けないことがあるので、公園で遊ぶ子どもたちを見守るようなボランティアを市内の高齢者の方をお願いしたい。また、遠くの公園に向かうバスを運行してほしい。

回答

市内にある四季の杜公園や昭和公園、五稜郭公園など子どもだけで行けない公園に、子どもたちを見守るようなボランティアを高齢者の方をお願いし、さらに高齢者の方も公園で体を動かすことで元気になること、また、遠くの公園に向かうバスを募金などで運行するこのアイデアは、とてもユニークで斬新なアイデアだと思いますが、学校の約束（校外での生活）として、遠くの公園に行く場合は、行き帰りも含めて、保護者（責任のもてる大人）と一緒に行かなければいけません。

また、地域には子どもと高齢者の方だけではなく、学生、若い方、お父さん、お母さん世代など様々な方が暮らしています。

その様々な方が暮らす地域全体で、子どもを見守り、一緒に遊び、学びながら、それぞれが成長できる地域を創りたいと函館市でも考えていますので、これからも皆さんと一緒にそれぞれがお互いに寄り添い、協力しながら、「誰もが笑顔で自分らしく暮らせる地域づくり」を目指したいと思っております。

担当課：土木部公園河川管理課、保健福祉部地域福祉課

